

週刊 かわら版

生徒と保護者のための

工業クラブ連盟 生徒発表大会

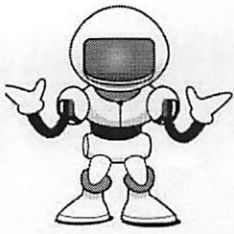
明日本校で



県内21校の工業系学科の生徒(外部から約四〇〇名の生徒)が集まり、日頃の学習の成果を発表したり、その知識、知恵、技術を競い合います。

「第26回鹿児島県高等学校工業クラブ連盟生徒発表大会」が行われます。大まかな内容を示します。

- 【体育館】 全体会、体験・意見発表、研究発表、表彰
 - 【自動車専攻科一階】 製作展示
 - 【柔道場】 ロボット競技
 - 【自動車専攻科三階】 マイコンカーラリーの競技
 - 【自動車専攻科三階】 アイデアコンペ・再生部門 アイデアコンペ・クラフト
 - 【図書館】 計算技術競技
- 10時からの開会行事のあと、各会場で、それぞれの競



先見コーナー

- 11/17(金) ○県工業クラブ連盟生徒発表大会(本校)
工業系生徒のみ出校, その他の学科の生徒は自宅学習
○全工計算技術検定 ○ニュース検定
- 11/18(土) ○危険物取扱者 ○ケンブリッジ英検
○第3回自専攻科入試
○九州高校新人柔道大会(長崎)(~19日)
○市文でつながるコンサート(ダンス部)
市民文化ホール
- 11/19(日) ○日商簿記検定 ○TOEIC
○漫画キャラクター検定
- 11/20(月) ○1学年キャリア教育(1限) 合同L.H.R.(体育館)
- 11/22(水) ○第29回吹奏楽部定期演奏会(宝山ホール)
- 11/23(木) ○勤労感謝の日
- 11/25(土) ○土曜補習(e・プ・特) ○第14回自専攻科OC
- 11/26(日) ○全商ビジネス文書 ○CG-ARTs検定
○CG-WEB.マルチメディア検定
- 11/27(月) ○全校朝会
- 11/29(水) ○期末考査(予備日)
- 11/30(木) ○期末考査

木曜日が祝日ですので、来週は休刊にします。次のかわら版21号は12月1日に発行予定です。

明日のかわら版

明日は、他校から多くの生徒職員が来校。校内が混雑し、多くの自習も予想されるために、工業系学科以外の生徒(普通系・情処・医福)は自宅学習です。試験も近いです。工業系学科(マルチ・情シ・特進・自工・メカ)の生徒は、平常通りの登校、帰りのスクールバスは2時45分発。食堂の営業、パンの販売、自動販売機のジュース類の販売もできません。必ず、昼食の準備をしてください。ただし、寮生の昼食は食堂の利用ができます。

最近のHP更新

- 濱田先生・南日美展 海老原賞(バリ留学)
- 西郷どん盛り上げ隊
- 情報処理科・かこしま近代文学館 企画展参加
- 簿記部・西日本簿記大会 団体3位(8年連続)
- 和太鼓部
- グループホーム運動会
- 文藝祭・小説や詩の募集他
- 柔道部圧勝・九州大会へ
- ラグビー部・8強入り!
- 演劇部
- 鹿児島市大会・最優秀賞
- マイカーフェスタに参加
- 囲碁 優勝など

エコバッグ 回収のご協力を



eブレップ科二年生ではグローバルな人材に育つ授業の一環として、国連が打ち出している「持続可能な開発目標」(SDGs/通称・グローバルゴール)を支援するためにエコバッグを回収しています。レジ袋の廃棄が地球環境に及ぼす影響は以前から叫ばれています。今正しい選択をすることで将来の世代の暮らしを持続可能な形で改善できるのではないのでしょうか。

就職指導情報 (重要)

二年生で就職を希望する生徒に大切なお知らせです。10月末に配布した「就職受診希望調査書」の提出期限が、11月22日午後5時です。必ず期限を守ってください。提出先は2階就職相談室まで。二年生も、もう進路決定の年が始まっているんですね。

清流

演劇に多少、関わっている。いつもとは違う高校生を舞台上に見ることはおもしろい。舞台上の彼らは見事な「俳優」でもある▼「俳優」の「優」の字は「憂」と「イ(人偏)」でできている。「憂」は、大切な人を亡くして悲しんでたらずむ人の姿を表し、そのすぐそばに寄り添っている人と合わせて「優」。つまり、俳優の「優」は、悲しみを演じる「悲劇役者」のことをいう▼悲劇だけが劇ではない。滑稽でおどけた役もしなければならぬ。その役柄を表す字が「俳優」の「俳」。お互いに背を向けた人同士を形どった「非」の字に「イ(人偏)」。その光景から「おどけた、こっけいな」につながる。これが笑いや喜びを演じる「喜劇役者」のことをさす▼さて、パーソナリティはペルソナが語源である。俳優が自分の役に応じて、仮面を被ることを意味していた。「役を演じる」とは仮面を被ることよく言われるが、逆に自分の仮面をはぎ取ることもあるとは、大会での審査員のコメント▼どんな小さな物語でも、自分の人生の中では、みんなが主人公である。しかし、派手な演出や効果音、照明のこまかしは効かない。それだけに、自分に対して責任を持たなければならない。